

## 4-2 地震のとき

### 地震被害を軽減する備え

地震はいつ発生するかわかりません。そのため、いつ発生しても対応できるように備えておきましょう。阪神・淡路大震災では、現在の耐震基準を満たさない昭和56年以前の建物に大きな被害が発生しました。また、亡くなった方の8割以上は、建物の倒壊や家具の転倒による圧死・窒息死が原因でした。

#### ■家屋の耐震化

**「屋根」の軽量化**  
軽い材料の屋根に替えることで、耐震性を向上しましょう。軽量化については耐震壁などの上部構造各部の補強と全体で考えましょう。

**「接合部」の補強**  
柱などの接合部がどのように作られているのかを確認し、できる限りしっかりとつなぎ合わせるようにしましょう。

**「老朽・腐朽部材」の交換**  
老朽・腐朽部材は新しいものに交換しましょう。

**「基礎・地盤」の補強**  
土台がしっかりしていないと、大きな地震の時は、住宅が倒壊する危険性が高くなります。基礎を補強して建物の性能を上げましょう。

**「壁」の補強**  
耐力壁\*の数を増やすと建物は丈夫になります。  
※「耐力壁」とは、構造用合板等を張り、想定される地震力に抵抗出来る壁のことをいいます。

#### ■家具の固定と配置の見直し

**倒れないように！**

●家具やテレビなどを固定し、転倒や落下を防止しよう。

**配置も注意！**

●寝室には倒れそうな家具を置かない。  
●扉をふさぐような配置をしない。

甲賀市では、無料耐震診断や耐震改修等の補助を行っています

対象住宅には条件がありますので詳しくはお問い合わせ下さい

甲賀市住宅建築課 TEL:0748-65-0609

### 地震時の行動

**地震発生時**

**① まず身の安全を確保！**  
机やテーブルの下に隠れましょう。または手近なクッション、座布団などで頭を保護しましょう。

**② すばやく火の始末を！**  
使用中のガス器具・ストーブなどの火を消しましょう。

**③ 出口の確保！**  
ドアが開かなくなることもあります。窓やドアを開けて避難口を確保しましょう。

**揺れがおさまったら…**

**④ 火の元の確認！**  
ガスの元栓をしめ、電気ブレーカーを落としましょう。

**⑤ 火が出たらすぐ消火！**  
万一出火したら、あわてず消火しましょう。天井に燃え移る前なら消火器で消火できます。

**⑥ 家族の安全を確認！**

**⑦ 避難開始！**  
非常持出袋を持ち、速やかに避難しましょう。

**避難のときは…**

**⑧ あわてて外に飛び出さない**  
落下物の危険もあります。あわてず避難しましょう。

**⑨ 狭い路地・ブロック塀には近づかない**  
ブロック塀や自動販売機が倒れる危険があります。

**⑩ 避難は徒歩で**  
車での避難は危険な上、緊急車両の出動の妨げにもなります。歩いて避難しましょう。

**避難後は…**

**⑪ 協力しあって応急救護**  
地域ぐるみで協力しあって、応急救護体制をとりましょう。

**⑫ 正しい情報を聞く**  
正しい情報はひとつです。間違った情報に惑わされず的確な行動をしましょう。

**⑬ 余震に注意！**

## ケガをした場合の応急手当

### 出血がひどかったら

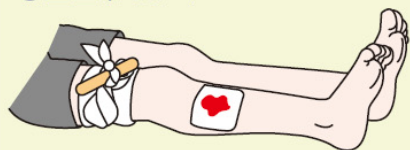
#### ①傷口を圧迫する(圧迫止血)



傷口にガーゼや清潔なハンカチなどを直接あて、強く圧迫する。感染防止のため、血液には直接触れないように注意してください。

#### ②傷口を心臓より高くする

#### ③止血帯をまく(圧迫止血できない時)



巻き方は、傷口より心臓に近い部分をタオルなどでかたく結ぶ。かたい棒などを結び目に差し込み回転させて、血が止まるまで締め上げたあとに固定する。

止血帯は15分間隔で少しずつ緩める。

### 骨折の疑いがあったら

#### 骨折の見分け方

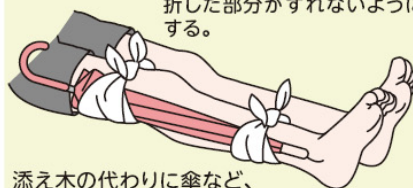
- ・けがをした部分が不自然に変形している。
- ・激しい痛みがある
- ・腫れや内出血がある。



#### ①とにかく動かさない

#### ②患部を固定する

添え木を当て、骨折した部分の上と下の関節を固定し、骨折した部分がずれないようにする。



添え木の代わりに傘など、あるものを代用する

#### ③患部を低くせず、安静を保つ

### やけどをしたら



#### すばやく水で冷やす

#### 手足の冷やし方

流水を直接当てると刺激が強い場合は、流しっぱなしの水道の下に洗面器などを置き、そこにつける



#### 衣服を着ているときの冷やし方

衣服を着たままの状態ですぐ冷やす。その後、水をかけながらゆっくり衣服を脱がせる。皮膚が衣服に癒着している場合は、無理にはがさない。